

# 「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

～「自己矛盾」って言葉知ってる？・・・～

「あの人は、他人の批判ばかりしているからダメなんだ」という言葉を耳にしたことはありませんか？…………この発言の滑稽さに気づきましたか？

そうなんです。「の人」について語っている当人がまさに「の人」と同じ、「他人を批判する人」になっているのです。これを「自己矛盾」と言います。

細谷 功さんの書かれた本に「自己矛盾劇場」(d ZERO) があります。物事の本質を捉えている内容です。

まずは、よくある「自己矛盾」の例を紹介します。



- 「視野が狭いヤツは絶対に許さない」→「絶対に許せない」と言うのはあなたの視野も狭いのでは…？
- 「これ、絶対人に言っちゃダメですよ」→………自分は言っておいて他者には禁止するの？
- 「他人の考え方口出しすべきじゃないでしょ」→………と言うのも……口出しでは…？

自己矛盾には3つの特徴があるそうです。

- 1 自ら気づくことはきわめて難しい。
- 2 他人から指摘されると「強烈な自己弁護」が始まる。
- 3 気づいてしまうと、他人の気づいていない状態が滑稽でたまらない。

斎藤 一人さんは・・・このようにおっしゃっています。

話しているとね、必ず否定論を入れたがる人がいるの。

あのね、なぜ物事を否定的に言うの？って。

物事は、どこからでも否定することができるんだよね。だけど、否定することで、あなたはなにかいことがあるんですか？って話なの。

否定的な角度から話をされると、その場にいるみんなが面白くなくなるんだよね。

で、俺にやるくらいだから、よそでもやってるよねって。

だから、人生うまくいかないんだよ。

人生うまくいかない人って、楽しいシャボン玉みたいのが飛んでくると、パッと針を刺して壊しちゃうんだよ。

しかも、そうやって場のムードを壊してることに気づいてない。

みんな幸せになろうって、ピラミッドを一段ずつ積み上げているの。楽しいことを積み重ねているんだよね。それなのに、脇からそれを壊したらダメだよね。

あなたはまともなことを言っているように思うかもしれないけれど………ムードを壊しちゃってるんだよ。

そういう人に、魅力がありますかってことなの。



「必ず成功する例外思考」斎藤一人・柴村恵美子著／KADOKAWA

そういえば・・・「KY」という言葉がよく使われていた時がありましたね。

場の空気感というのは大切です。例えば、何人かが集まって話をしているときに、会話に入れていない人がいたとします。そういうときには、つまらなそうにしている人に話を振ってあげるとか、それとなく話題を変えるなど、皆が楽しめる「場の空気感」を意識したいものです。

自分の感情を優先するよりも、人の感情を優先できる人はやはり、魅力的な人といわれますね♪